



埋文だより

第60号

平成25年2月15日発行



田原迫ノ上遺跡集落跡



竪穴住居跡

弥生時代中期後半の大集落

今年度の調査で、弥生時代中期後半の竪穴住居跡 23 軒や掘立柱建物跡 11 棟、円形・方形周溝 8 基や土坑 14 基、柱穴列等が発見されました。

集落跡からは山ノ口式土器が出土しており、弥生時代中期後半（約 2,000 年前）の大集落と考えられ、県内でも有数の規模です。集落跡の範囲は 130m 以上にわたっており、周辺にも集落が広がることが想定できます。さらに、規格性の高い竪穴住居跡のほか、大型のものを含む掘立柱建物跡、柱穴列、土坑や円形・方形周溝等の多様な遺構で構成されており、貴重な発見であることが明らかになりました。

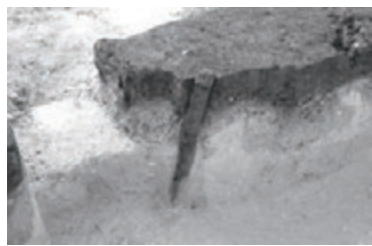
目次

- ・ 弥生時代中期後半の大集落 1
- ・ 平成24年度遺跡の発掘調査 2, 3
- ・ ふれて・見て・学んだ埋蔵文化財 4
- ・ 平成24年度発掘調査現地説明会ほか 5
- ・ 設立20周年記念フォーラムほか 6

速報！ 平成24年度 遺跡の発掘調査

本年度、当センターでは県内13遺跡の発掘調査を行い、7遺跡の報告書を作成しました。このうち、8遺跡を速報でお知らせします。詳細は、来年度の「新発見！かごしまの遺跡2013」で紹介します。

① 湿地で見つかった木製の杭列 ～中郡遺跡群～（出水市）



遺跡内に周辺よりも標高が5m程低い地形で、水が湧く場所があります。

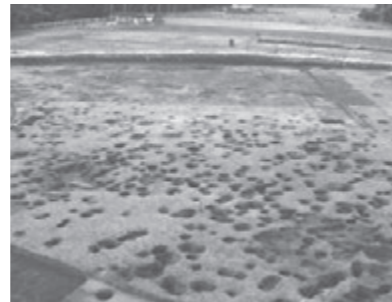
その湧水の境界付近で、木製の杭が17本並んだ状態で見つかりました。杭列は、出土状況から中世のものであると考えられます。すべての杭の先端は加工して鋭く尖らせてありますが、先端以外は、あまり加工した様子が見られません。杭列が作られた目的の解明は今後の検討課題です。

③ 墨書土器多数出土 ～川上城跡～（鹿児島市）



築城以前（9～10世紀）の遺構がありました。中でも大型の柱穴が残る掘立柱建物跡は他の建物とは規模が異なっています。また、遺跡内から多量の墨書土器や刻書土器、ヘラ書き土器が出土しています。これらのことから、遺跡内には字を理解できる人たちや地元の有力者が居住していた可能性があると考えられます。

② 幅広い生活様式 ～山口遺跡～（薩摩川内市）



上牛鼻産や霧島系黒曜石を用いた細石刃等の石器製作跡が検出され、土器片も出土しました。縄文時代草創期（約13,000年前）の頃のもので、大変重要です。鎌倉時代の遺構も、掘立柱建物跡が多く検出されました。「屋敷墓」を敷地内に祀る形態の屋敷群だと考えられます。

④ 中・北部九州との交易 ～芝原遺跡～（南さつま市）

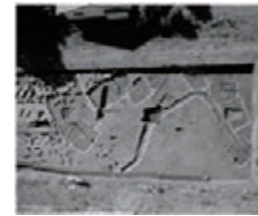


3～4世紀の地層からは、地元の中津野式土器を中心とする多量の土器が出土しました。これらの中には中～北部九州から持ち込まれたと考えられる庄内式土器や布留式土器、またそれらをまねて地元で作ったと思われる薄手で軽量の甕や、口縁部外面に鋸歯文を描く小型の丸底壺である埴なども出土しました。

当時の中～北部九州との交易や製作技術の伝播等を考える上で興味深い資料といえます。

⑤ 土器や竪穴住居跡が当時を語る～稲荷山遺跡・鎮守山遺跡～（鹿屋市）

稲荷山遺跡と鎮守山遺跡では、古墳時代（5～6世紀）の南九州の在り土器である成川式土器が多数出土しました。右の写真は、煮炊き用の甕や食器として使われた高坏、鉢です。



竪穴住居跡

また、鎮守山遺跡では、多くの竪穴住居跡が重なって発見されたことから、当時の人々が繰り返し住居を建て直し、長い年月にわたり集落を営んでいたことが分かりました。

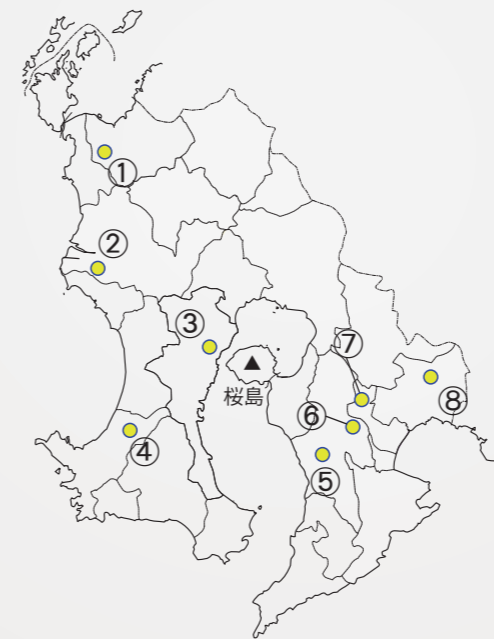


成川式土器

⑥ 武器と一緒に葬られた女性 ～立小野堀遺跡～（鹿屋市）

平成24年12月現在、約170基の地下式横穴墓が発見されています。その中の148号墓には、人骨と共に複数の矢じりと1振の剣、青銅製の鈴が副葬されていました。この人骨は20代の女性とみられています。古墳時代（5世紀頃）では珍しい鈴や近畿地方など遠方で作られた矢じり等から権力を持った人物と考えられます。

また女性に武器が副葬されていることも珍しく、大変貴重な資料となりました。



⑦ ムラに積もった縄文の火山灰 ～天神段遺跡～（大崎町）



縄文時代早期前半（約9,000年前）の竪穴住居跡や連穴土坑などの遺構が見つっています。特に注目されるのが、遺構の中に堆積している桜島の火山灰です。

今後この火山灰を詳しく調べて、ムラが受けた噴火の影響等を解明していきます。

⑧ 100年前の大噴火が見える道 ～下原遺跡～（志布志市）

旧石器時代、縄文時代、弥生時代、江戸時代、明治時代の遺構・遺物が出土しました。

特に幅約3.2mの大型道路状遺構は、砂利敷の構造や蹄鉄の出土から明治時代に使われた馬車道とみられ、埋土中に大正3（1914）年桜島大噴火の火山灰層を検出しました。

平行して通る明治時代以前の道跡も検出し、この地域が昔から交通の要所であることがうかがえます。



ふれて・見て・学んだ 埋蔵文化財

本物にふれる -まいぶんキット貸出事業-

本年度は、5校（対象14学級；379名）への貸出事業を実施し、授業や郷土教育への取り組みに活用されました。

「火起こし体験ができてよかった。昔の人は大変だと思ったし、今はけっこう楽だと思った。」

「縄文時代の土器が、あんなに丈夫だとは思わなかった。」

「やりの先は硬いけど結構小さい。」等、感想が寄せられました。

来年度も、「まいぶんキット貸出事業」として、本物にふれる機会を提供します。ご利用ください。



縄文土器にふれてみよう

☆対象：県内の希望する学校

☆貸出教材：土器（縄文時代、弥生時代）、石器（石斧、石鏃）など

例：「縄文土器の文様を比べよう」「火起こし体験をしてみよう」
「薩摩焼の歴史」堂平窯などの出土遺物など

かごしま県民大学連携講座「鹿児島島の遺跡に学ぶ」

本年度も、鹿児島の大昔の人たちの生活を3回にわたって、わかりやすく紹介しています。その一部を紹介します。第3回も、御期待ください。

☆第2回「旧石器時代からの風景の移り変わり」〈10月20日（土）〉

36名の参加者があり、

「写真を使ったわかりやすい講演であつという間でした。」

「遺跡では、ほとんど出土しない木製品。【木の文化】を改めて考える機会となりました。」

「里山のつくりの内容が面白く、歴史にも一歩ずつ踏みこんでいくことができました。」など、大変好評でした。

☆第3回「縄文時代の生活」〈2月23日（土）〉

来年度も本年度と同じ時期に開催する予定です。

詳細はお問い合わせください。



第2回講座「旧石器時代からの風景の移り変わり」

県総合教育センター土曜講座



実際の遺物が教材の一つとして

鹿児島県総合教育センターにおいて、学校の先生方を対象にした自主研修講座を開設しました。埋蔵文化財と授業をどのように連携させ、活用していくかをテーマに校種を問わず実施しました。

題して、「これは使える！校区の歴史と文化」。事前アンケートから、所属校の地域にある身近な文化財を授業の題材に活用方法を紹介し、授業での発問や指示の例を検討するなど具体的な討論も行いました。今後の授業に生かせる講座との感想もいただきました。

現地説明会を実施しました

た はらきこ のうえ
田原迫ノ上遺跡(鹿屋市)
なが よし てん じん だん
永吉天神段遺跡(大崎町)



弥生時代の集落跡の説明（田原迫ノ上遺跡）



大型円形住居跡の説明（永吉天神段遺跡）

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは、発掘調査中の遺跡の現地説明会を行っています。発掘調査で見つかった土器や石器、昔の人々の生活の跡を、現地で詳しく紹介しています。平成24年度は、田原迫ノ上遺跡（鹿屋市）と永吉天神段遺跡（大崎町）、荒園遺跡（大崎町）で実施しました。

田原迫ノ上遺跡では、弥生時代中期の集落跡が見つかり、当時の人々の生活の様子を紹介しました。永吉天神段遺跡では、弥生時代中期の共同管理の可能性のある大型円形住居跡など複数の住居跡を紹介しました。どちらも多くの見学者の方々に来ていただき、好評を得ました。平成25年度も現地説明会を開催予定です。詳細は、ホームページ等でお知らせします。



地震による液状化現象（永吉天神段遺跡）

「河口コレクション」の寄贈

鹿児島県の考古学界をリードしてこられた考古学者河口貞徳（1909～2011）氏は、昭和24年から約60年間にわたり数多くの遺跡を発掘調査し、遺物の時期や生活内容の解明を進めてこられました。その出土資料は、鹿児島県の歴史や文化を知る上で、大変貴重なものです。

今回、ご遺族のご好意により、そのすべてを一括して、「河口コレクション」として県立埋蔵文化財センターに寄贈していただきました。



昭和35（1960）年頃の発掘の様子

これら貴重な資料を整理・保存し、鹿児島県の新たな歴史が紐解けるように研究を進めていきます。

開催中の第35回企画展で、その一部を公開しています。当時の発掘調査の様子や貴重な資料を直接見ることでできるいい機会です。

是非、上野原縄文の森展示館にお越しください。



河口貞徳氏（昭和30年）

遺跡から見えるかごしまの歴史と文化

設立20周年記念フォーラム



鹿児島県立埋蔵文化財センターは開所20周年を迎え、平成24年11月17日に『遺跡から見えるかごしまの歴史と文化』と題して記念フォーラムを開催しました。

本センターがこれまで実施してきました発掘調査や報告書作成、研修、普及活動などの事業成果を紹介し、鹿児島の歴史と文化について考える機会となりました。旧石器時代以降の調査成果について、鹿児島では欠かせない火山や海との関わりを考慮した、時代ごとの発表を行いました。

歴史理解の一步となるわかりやすい解説であったと来場の皆様には好評でした。遺跡の活用方法についても、遺跡サポーターの児玉ゆりえさんを迎え、来場の皆さんの御意見も交えながら、より多角的な視点からの活用法の一端が見出されたのではないかと考えます。御来場いただいた多数の皆様には心からお礼を申し上げ、また関係各位に感謝いたします。



歴史と文化の案内人(進行)



縄文時代の発表



対談～どう生かす鹿児島の遺跡～

桜島大正大噴火100周年にむけて 次回企画展のお知らせ



桜島の大正大噴火(1914年1月)から、まもなく100周年を迎えます。それに関連して上野原縄文の森展示館で、第36回企画展『巨大噴火と共に生きた人々(仮)』(4月19日より)を開催します。

鹿児島の遺跡と火山灰の関係は切っても切れないものです。桜島をはじめ、火山の歴史をたどると共に、考古学における火山灰研究の成果やその時代に生きた人々の暮らしを紹介します。



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp/>) からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック

埋文だより 第60号

発行日 平成25年2月15日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp